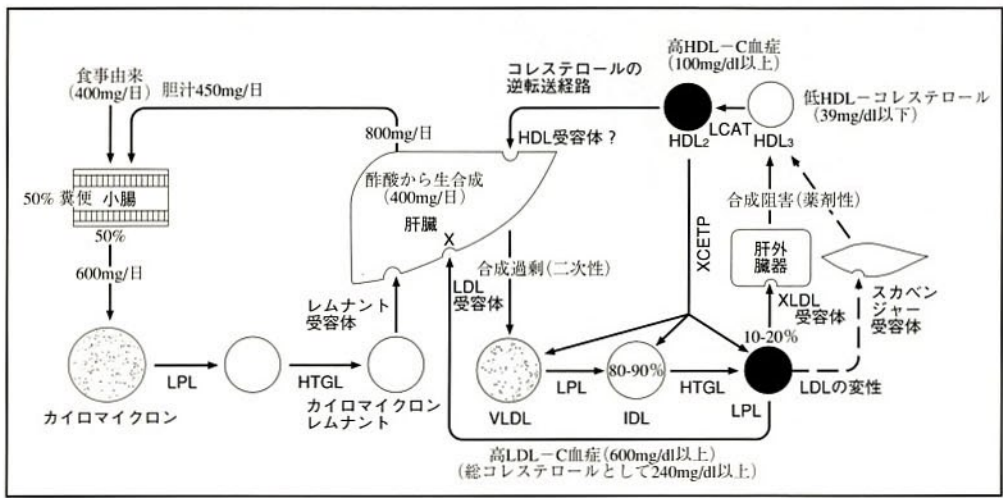


コレステロールが高い時



日本臨床検査医会

岡部 紘明



血中コレステロールが高いという時は、蛋白と結合しているリポ蛋白コレステロールが高いことをいいます。リポ蛋白で重要なのは、LDL（低比重）、HDL（高比重）—コレステロール（C）です。コレステロールは私達の身体の細胞の構成成分であり、ホルモンや胆汁の原料でもあります。

生体内でのコレステロールのバランスを図に示しましたが、コレステロールが高くなる原因には幾つかあります。主として、生まれつき高い人、又は食事によって高くなる人（遺伝性、家族性）と他に病気があって、その結果高くなる、二次性（又は続発性）高コレステロール血症があります。LDLもHDLもコレステロールを運ぶ重要な役割を担っていますが、LDL-Cが高くなると粥状動脈硬化が起きやすくなりますので、悪玉コレステロールといっています。血中総コレステロールの理想値は150〜199 mg/dl位で、動脈硬化がこれ以上進展しない限界と考えられています。

日本動脈硬化学会では、総コレステロールが240 mg/dl以上を高コレステロール血症と決めました。しかし、総コレステロールの内の多くがLDL-Cコレステロールで、また動脈硬化進展に直接反映していますので、LDL-Cが160 mg/dl以上の場合も高コレステロール血症と診断することになっています。HDL-Cコレステロールは動脈硬化を防ぐ役割を持っているので、善玉コレステロールといっていますが、総コレステロールやLDL-Cが正常でも、HDL-Cが40 mg/dl以下

の低い時は危険です。HDL-Cは生まれつきのCEP/A欠損症ではHDL-Cが100 mg/dl以上となり日本人には多く見られます。この場合、抗動脈硬化作用があるかどうかハッキリしていません。

日本人の場合、総コレステロールの高くなる人（家族性高コレステロール血症などLDL-Cを受け取る部分に異常がある人）では、コレステロールの高い食事をしますと、500人に一人位の割合で血中濃度が350 mg/dl以上に、100万人に一人位の割合で700 mg/dl以上になる人がいます。血中のコレステロールが高くなると血管や組織の傷害を治すことが出来なくなり、血管の傷口に詰まり、血栓を作り、粥状になり動脈硬化が進みます。また、二次性高コレステロール血症には基礎疾患として肥満、糖尿病、甲状腺機能低下症、ネフローゼ、閉塞性肝疾患や治療薬剤によっては、コレステロールの働きに係る蛋白や酵素に異常を起し、血中コレステロールを高くすることがあります。総コレステロールが240 mg/dl（LDL-C 160 mg/dl）以下でも、男性で45才以上、女性で55才以上になると、血清総コレステロールが増加して動脈硬化症になりやすく、動脈硬化の危険因子としての糖尿病、高血圧、喫煙など2〜3あると、200 mg/dl（LDL-C 120 mg/dl以上でも）、4個又は心筋梗塞の病歴のある人では総コレステロール180 mg/dl（LDL-C 100 mg/dlくらい）でも治療が必要になります。